

### 埋蔵文化財センター遺跡調査技術研究室

当研究室では、遺跡の発掘調査技術の向上や研究の進展、遺跡の保存活用に資する研究の一環として、第一に、官衙遺跡発掘調査法の研究を進めています。この研究では、古代官衙建物などの遺構や遺物の特徴等について分析し、それらの情報を遺跡から発掘し抽出する際の専門的知識や技術・留意点を明らかにすることを目指しています。研究成果の一部は、『古代の官衙遺跡 遺構編』、『古代の官衙遺跡 遺物・遺跡編』として刊行しています。掘立柱建物や礎石建物など官衙遺構の諸属性と特徴、発掘調査の手法、官衙関係遺物の特徴、各種の官衙遺跡ごとの特徴や類型などをまとめたものです。手引き書としても活用され、各地の官衙遺跡発掘調査や出土遺物観察の技術向上に寄与できればと期待しています。

第二には、古代の官衙・寺院・集落・豪族居宅等の遺跡の発掘調査成果から、文献名、建物遺構の諸属性、主要出土遺物の種類などのデータを収集し、データベース化する作業もおこなっています。これまでに遺跡数4,000件余り、文献数約18,000件、建物データ10,000件以上を収集しています。これらの情報を広く共有化するため、数年以内に奈文研ホームページ等で基礎的データが公開できるよう、最新データへの更新、データ追加、データベース構造の改良なども進めています。

第三には、官衙と周辺寺院との関係などを追求するため、ケーススタディとして鳥取県気高町上原遺跡群（因幡国気多郡衙・寺院）の遺構・遺物の整理をおこない、その成果の一部を上原遺跡群発掘調査報告書（気高町2003年刊）としてまとめています。このテーマでは、瓦類などの分析を踏まえながら、郡衙周辺寺院の性格やその役割、郡領域と地方豪族の交通関係などについても研究を継続しています。

第四に、在地における律令国家支配のあり方を学際的に考え、現状での研究成果や問題点を整理し公開普及することを目指して、古代官衙・集落に関する研究集会を毎年一度開いています。2003年度は「駅家と在地社会」をテーマに開催しました。2004年度は「地方官衙と寺院」について討議する予定です。

このほか、地方公共団体からの依頼に応じて、官衙・寺院遺跡等の発掘調査や保存整備活用等について指導助言する職務も重要な位置を占めています。

（遺跡調査技術研究室 山中敏史）